

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	キリスト教と文化研究センター
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. キリスト教主義教育を大学教育の現場で実現するための調査・研究を行う。	→学内のキリスト教関係授業を支援する研究プロジェクトを発足させる。	B	B	B	B	/
2. キリスト教と文化とが会う問題をあつかう学際的な研究プロジェクトを推進する。	→学際的な共同研究プロジェクトを複数実施し、その研究成果にもとづいて研究紀要等を年1回発行する。	B	B	B	B	/
3. グローバル化された現代社会が直面する諸問題を啓発するための企画を実施する。	→現代社会が直面する問題に関するフォーラムを年4回以上開催する。	B	B	B	B	/
4. センター研究活動の成果を、迅速かつわかりやすく学内外に周知する。	→センターの活動・研究をデジタル化して公表できる体制を構築する。	B	B	B	B	/
5. 日本におけるキリスト教平和学の情報発信・交換の拠点となる。	→他のキリスト教関連団体、平和活動団体等と共同した企画を年1回実施する。	C	C	C	C	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	「関西学院におけるキリスト教主義教育の展開」プロジェクトにおいて、キリスト教関係授業の改善等に関する研究会を、学期に1回ずつ行った。
目標2	「ミナト神戸に宗教多元主義を探る——＜海のシルクロード＞の文化と宗教的共生」、「自然の問題と聖典」、「関西学院におけるキリスト教主義教育の展開」の各プロジェクトにおいて、それぞれ学際的な研究を行い、その内容を紀要『関西学院大学キリスト教と文化』第14号（2013年3月発行）において報告した。
目標3	現代社会が直面する問題に関するフォーラムを4回（「原発問題とキリスト教——平和、環境、人権——」など）、公開講演会を3回（「森は海の恋人——人の心に木を植える——」など）行った。
目標4	RCCの行った講演会・フォーラム・研究会の内容や活動は、「RCCNewsletter」をデジタル化して、ホームページ上で公表している。
目標5	他の団体と共同した企画については、神学部との共催以外にはまだなされておらず、検討中である。
備考	